

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100167		
法人名	有限会社田代総合サービス		
事業所名	グループホームきずな		
所在地	福岡県北九州市門司区吉志1丁目4番1号 (電話) 093-483-1501		
自己評価作成日	令和4年7月29日	評価結果確定日	令和4年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念である利用者様一人一人の想いを尊重し、利用者様がやりたい時にやりたいことができる環境づくりに力を入れています。また、場所が、閑静な住宅地であり、車の往来も少なく、畑や木々に囲まれ毎日、のどかに過しています。施設特有のにおいの無い空間であるよう環境整備を行い、利用者様と共に作成した制作物の展示をし季節感を感じて頂いています。利用者様の居室は、今まで自宅で愛用してきた家具や、生活用具を設置していただき、極力自宅と同じような空間を作り、安心して生活ができる様に取り組んでいます。職員においては、定期的に勉強会や研修会に参加し認知症に対する知識と技術を高め、日々の介護に生かせるよう努力しています。職員と利用者様が家族のように毎日を穏やかに過しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和4年8月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、昔ながらの住宅地と新興住宅地のちょうど境にあり、様々な年齢層の住民が居住する地区に位置している。通りから少し山の手に入っているため、自然豊かで静かな環境でもある。
近隣には、同一法人のグループホームが1箇所、小規模多機能型居宅介護事業所が2箇所あり、4事業所による会議や研修会が定期的開催されている。
事業所の理念に基づいた地域活動や外出支援が積極的に行われており、地域密着型の意義と役割を果たすよう努めている。チームワークの良いスタッフが管理者と共に利用者への日々の支援を考え、様々な活動が実践されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	四つの事業所理念を各ユニットの職場会議やケースカンファレンス、身体拘束廃止委員会などを通して、常に理念の共有を行い、実践に繋げる努力をしている。	4つの事業所理念を掲げ、利用者がやりたい時にやりたい事ができる支援を基本とし、地域密着型の視点も理念の中に取り入れられている。会議の中でも、理念について話し合う機会があり、職員が理解し実践しやすいように、実際の支援に関連づけた説明と共有がなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において感染防止を優先しながら、地域への散歩やドライブ、買い物を行い、バンドの演奏、小学生のダンスなどを施設に招いて交流を図っている。	地区の自治区会に加入している。福祉センターで行われる文化祭に参加し、作品を製作、展示している。事業所の会議や研修に地域の市民センターを利用する際は、地域住民の参加もある。コロナ禍であるが、感染対策をしながら、慰問も受けており、地域との交流が絶えることがないようにしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、家族や地域の方の面会に制限を設けてはいるが、出来る限りご家族や、地域の方に現状をお伝えし認知症の人への理解や支援を行って頂くようコミュニケーションを図っている。また、認知症の方々の日常をブログで発信するなどし、理解をして頂くよう心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においても、運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、民生委員、市保健福祉課、地域包括、事業所職員が参加し2か月間の状況報告や、対応に困っていることなど相談し意見やアドバイスを頂くことでサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者や利用者家族、市保健福祉課、地域包括支援センター、民生委員が参加している。事業所の行事や事故等の報告をし、事業所の課題を相談することもある。面会についての意見が出た際は、感染状況に応じて、ガラス越し面会、事業所入口での面会、居室での面会と3段階で対応することとした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	金銭問題や、後見人である家族の問題など市保健福祉課や地域包括支援センター職員へ相談、報告など連絡を密にしアドバイスを頂くなどして連携を図っている。	様々な相談事は、地域包括支援センターが窓口となり、対応いただいている。また、日頃から行政へ利用者の権利擁護や経済的な相談をし、アドバイスや対応策の提案を受ける等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みや、研修に参加し職員全員が周知徹底出来ている。やむを得ず身体拘束をする場合はユニットミーティングや身体拘束廃止委員会で話し合い、緊急性、非代替性、一時性などの原則を周知することで身体拘束を行い、ケアに努めている。	事業所の玄関は施錠せず、センサーや駐車場にモニターを設置して対応している。現在、家族の要望もあり、車いす抑制ベルトを使用している利用者がある。身体拘束廃止委員会が設置されており、委員会で定期的に評価、見直しが行われている。	家族に対して身体拘束による弊害について理解を促し、環境や支援方法の見直しを常に行い、早期の改善を期待する。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の参加や勉強会を行い、職員間で虐待防止に対する意識の共有を図っている。また、職員のお互いの言動や行動に注意し虐待の危険性を早期に発見することで虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修に参加し、勉強会を通じ職員間で権利擁護に関する情報を共有し、必要がある場合は、関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、契約時にパンフレットを用いて説明している。外部研修や事業所内研修で、制度について学習する機会がある。相談があればスムーズに利用に結びつけることが可能となるように、制度について周知されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際に事業所の運営理念を説明し、疑問や不安等を伺い、十分に納得を得た状態で契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行っているイベントの参加や面会の際などに家族や利用者とのコミュニケーションを図り、意見や要望を伺うように努めている。コロナ禍においては、電話報告を密に行い、通信などでも状況報告をし、家族からの意見や要望など情報を得た職員との情報の共有を行い、運営に反映できるように努めている。	利用者が日常的に意見や思いを職員へ伝えられる機会がある。バイキングに行きたい、飛行機や海が見たいといった希望に応え、外食、外出支援を行う等、職員は利用者から出た意見や希望を運営に反映させるよう努めている。また、年に2回、家族が集まる行事を行い、家族の思いや希望を聞く機会を設けている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内においては、定期的にミーティングや勉強会、ケースカンファレンスを行ったり、連絡帳や思い付きノートなどを通じ、職員の意見や提案を聴き、運営の質の向上に努めている。企業全体としては、4か月に1度の全体会議に於いて全職員との交流を図り情報交換を行っている。	職員は、「おもいつきノート」というノートに提案や意見等を自由に記入することができる。意見や提案は、月に1度の職場会議で取り上げられ、職員全員で協議されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況や特性を把握をし、それぞれが少しでも働きやすい環境を作れるように努めている。有給休暇も平等に取得できるようにお互いが協力し合える環境づくりに努めている。ストレスチェック等も実施していたが、例えコンピューター診断であっても、職場の上司や同僚が実施するのは、本音が書けないと言った意見もあり、実施が途絶えた。今後は他の機関を利用するなど検討していきたい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、職員の個々の特性、能力、体力、家庭状況等を把握し、その能力が十分に発揮できるような環境作りと、どんな状況下においても、安心して働くことが出来るよう配慮している。	定年は設定せず、本人の意欲があれば継続して働くことができる。勤務年数が長い職員が多く、リフレッシュ休暇の取得が促進されている。職員のスキルアップや自己実現のため、外部研修への参加を奨励しており、職員一人につき年2回以上、外部研修に参加している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の参加や定期的な勉強会、ビデオ視聴などを通じて人権について学ぶ機会を設けている。	事業所は年間の外部研修受講計画に、人権に関する研修を予定し、計画的に受講している。昨年度は調整ができず参加していないが、今年度は受講予定である。さらに、事業所内で人権をテーマとした研修を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職としての質の向上や、ケアの質の向上の為、定期的な勉強会や外部研修に積極的に参加している。また、年3回の企業全体会議では、情報交換や勉強会、心肺蘇生訓練などの実施訓練などを行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修ではリモート研修が主となったため同業者との交流を図ることがむずかしくなったが、企業全体会議においては、積極的に交流を図り、悩み事や情報共有、情報交換などを行い、サービスの質の向上を目指す取り組みを行っている。また、相互訪問を行い、合同イベントにも取り組み、他事業所職員との交流も図った。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、特に利用者様の個性を把握し、傾聴受容の姿勢で安心して生活が出来る環境づくりをし、1対1の対話の機会を設け信頼関係を築く様に努めている。また、情報の共有を図ることで、どの職員に対しても安心できる関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を把握し、安心できるよう密に連絡を取り、信頼関係を築く様に努めている。又、日頃の生活状況をブログを通じて見て頂くことで安心して頂いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人や家族の話を傾聴し情報収集に努め、 求めている事を把握することで支援に繋げ ている。また、福祉用具など本人の機能や 能力に応じたサービスを提供できるよう努 めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	お楽しみイベントとして、利用者様とカ レーライスや一銭洋食、ホットケーキ、月 見団子等を一緒に作ったり、日常生活にお ける動作では、食事の後片付けや掃除、洗 濯物干し、洗濯物たたみなど出来る機能を 低下させない程度に、職員と共に行い共同 者の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	コロナ禍においては、面会時間の短縮やイ ベントへの参加を中止している状態ではあ るが、電話やきずな通信、ブログ等で状態 の報告や情報交換を積極的に行い、家族と 共に本人を支える関係づくりに努めてい る。また、家族が病気であったり、遠方で あったりする場合は、家族に対しても支援 できる関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、以前のように馴染みの理髪店 などは利用できていないが、馴染みの場所 へのドライブや買い物、外食などは継続し ている。また、信仰している教会の方の訪 問等も受けている。	以前、利用者が加入していた老人会や老人 クラブの友人が事業所を訪れることがあ る。また、行きつけの美容院へ行く等、地 域との関係を継続できるように支援して いる。地域との関係が深い利用者が多く、そ の関係が継続されるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態を職員が周知把握 し、利用者様同士のコミュニケーションが 円滑にできるように、時折席替え等も行っ ており、レクにおいても共同で作品を作る などして、お互いが支え合い共同の達成感 を味わって頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	必要に応じて電話連絡を行ったり、転院先 の状況を聴くなどして経過フォローしてい る。また、退所時には、滞在中の写真をUSB に保存し家族へプレゼントしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の生活歴を把握し、本人の能力、心身状態に合わせたケアを行える様に努めている。	入居時に、本人や家族等の関係者からの情報を基にアセスメントを行い、介護計画に反映させている。入居後は、本人の意向確認をベースとし、職員間で情報共有し、支援のあり方等について柔軟に検討されている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き取り、ケアに反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し、本人のペースに合わせてケアを実践している。心身状態に関しては、一日2回バイタル測定を行い、異常の早期発見に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケースカンファレンスやモニタリングを行い、本人の状態や家族の希望を把握し、情報交換を行いながら計画を作成している。	介護計画やモニタリングは、定期的及び随時に、チームで検討されている。介護計画の見直しについては、本人や家族の意向確認及び作成後の説明や同意等、適切に実施されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や発言をありのままに介護記録に残し、利用者様の心身状態や変化を職員間で共有し、ケアに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にあり、外出外泊に制限があるものの、個々に合ったりハビリ、レクリエーション、医療連携等、柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。また、家族も高齢であることから、家族フォローにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園への散歩、コンビニへの買い物地域交流センターへの訪問や同区内の施設見物などコロナ禍でも出来る地域資源の活用や、交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望によるかかりつけ医の確保定期受診等適宜支援している。 また、1週間に1度の歯科の訪問診療、2週間に1度の内科医による訪問診療を受け、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望に応じて、かかりつけ医や提携医による受診を支援している。家族と受診時の通院介助の方法や情報の伝達方法について話し合い、合意している。提携医による訪問内科診療や訪問歯科診療、看護スタッフによる日常の健康管理等、医療連携体制が整備されている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の状態や変化を看護職に報告し情報共有に努め、又対応や処置の指導などを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が受診又は入院する時は、病院に看護介護添書を渡し情報の共有を図っている。また、入院から退院までは医療連携室と密な連絡をとりあっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、家族、医師、看護師が常に話し合いが出来る環境を整えている。	重度化、看取りへの対応については、入居時に明文化した書面を用いて、利用者や家族へ説明し、同意を得ている。身体状況の変化に応じて、利用者や家族、提携医、職員等、チームで検討を行い、方針の共有を図っている。また、重度化、終末期へ向けた支援に関する勉強会が定期的実施されている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加や勉強会、心肺蘇生実施訓練を行い、事故発生に備え対応できるように努めている。また、事故発生時の対応をマニュアル化し、見える場所に掲示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・風水害・高潮・地震等の災害を想定し、定期的に避難訓練を行い、備蓄品の確保等を行っている。また、災害についての勉強会も行っている。地域への呼びかけは避難場所を福祉センターにするなどして協力を得ている。しかし、近隣住民に対しては民生委員を通して訓練の実施を報告するのみとなっている。	消防署の協力のもと、災害避難訓練や通報訓練等を定期的実施している。地域住民へ参加を呼びかけている。各ユニットごとにリスト表に基づき、非常用備品や食品、飲料水等が管理されている。非常用発電機が準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、それぞれの方のプライバシーを守り、接遇の徹底に努めているが、職員も人間であり時にはきつい言葉も聞かれる。その際はお互いが注意し合う事で、仲間意識を深め、介護者としてあるべき姿を常に心掛けるように努めている。	職員は、利用者の人格や誇り、プライバシーの尊重に配慮した支援に努めている。また、日常のケアに活かすべく、内部研修を実施し、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言いたい事を言い、利用者様自身が自己決定が出来るように、状況や場面作りに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まってはいるが、無理強いをせず、一人一人の思いや、その人らしいライフスタイルを尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月おきの散髪を定期的に行い、その他顔そりなど希望があれば近隣の理髪店を利用している。個々の生活習慣、好みに合わせて本人の意思で行っている。自己決定が困難な方には、職員が気温や季節感を考慮して支援している。家族の面会の際には特にきちんとした身なりである様に心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事前に献立をお知らせしたり、時には季節弁当の利用や、隔週の日曜日の朝にはパン食にするなど工夫している。裏庭に利用者様と一緒に野菜を植え、収穫したものを食事にすることも喜びで頂いている。片付けは当番制にしており、皆様進んで片付けをして下さっている。	通常の食事以外に、利用者のリクエストに応え、パン食、行事食、外食等の支援が行われている。ホーム敷地内で栽培された旬の野菜やミカン、柿等が食卓を彩っている。また、職員が利用者と一緒に食事の片付けを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況を考慮してカロリー計算を行い、嚥下状態に応じた食事形態で提供している。また、アレルギー対応や栄養補助食品の導入も行っている。水分は、最低一日1000mlとし、制限がない限り1200～1500ml摂取を促している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア及び義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔、異常の早期発見に努めている。また、週に1度訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や情報の交換を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して定時声掛けや誘導を行っている。また、失禁しないように紙パンツに頼るのではなく、状況に応じて布パンツに戻し、機能の後退を防ぐなど試みている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて個別支援が行われている。排泄機能の向上へ向けた排泄の自立支援に取り組んでいる。トイレは1ユニットに3ヶ所設置され、清潔でゆとりのあるスペースが確保されている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給や本人の好みの乳酸菌飲料を摂取したり、牛乳、ヨーグルトなどを取り入れ、出来るだけ薬に頼らない方法を試み、腹部マッサージや排便体操を実施し、それでも便秘の場合は医師に相談し、緩下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ほぼ全員が、見守りや入浴介助が必要なため、色々な業務を兼ねながらの入浴介助なので、決まった範囲での時間や曜日を入れ替える事は実施しているが、利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴をして頂くことは難しい。しかし、入浴が楽しめる様に入浴剤の使用や、季節に応じミカン風呂や菖蒲湯などの工夫は行っている。	入浴は午前中、週2回とし、利用者の希望に合わせては難しいが、月曜日から土曜日まで入浴が可能な体制を整えている。職員は入浴剤や菖蒲湯、ミカン風呂等、利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。浴室は広く、脱衣所の換気や温度調節への配慮、入浴後の保湿クリームの塗布等の支援も行っている。	日曜日以外の週2回、午前中と回数や時間を定めず、利用者の希望に合わせた入浴支援を行うことに期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や照明の工夫、寝具の定期的な洗浄、交換を行い、常に気持ちよく入眠できるように援助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情を常に確認できる場所に保管し、作用・副作用を職員間で共有するように努めている。また、薬のセットは数人で何度も確認し、誤薬防止に努めている。嚥下の状態に応じて、薬の形態もその人に合ったものに選別している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては、食器拭きや洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、畑作業など個々の能力に応じた役割を持っていただき、日々やりがいを感じて頂ける様配慮している。嗜好品や楽しみごととしては、希望する飲食店に食事に行ったり、買い物に行くなどを試みている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、季節に応じて外出を行い、花見、鯉のぼり見物、紅葉狩り海辺へのドライブなどを行ったりし、その際には、ご自宅の傍を通って懐かしんで頂いたりしている。利用者様によっては外食やショッピングなどを積極的にやっている。また、外出が難しい方は、近隣の散歩などを行い、ご家族にも協力を仰いでいる。	日常的に事業所周辺の散歩を行っている。感染対策を行いつつ、利用者の体調や希望に応じて、季節の行事やドライブ、ショッピング等の外出支援に積極的に取り組んでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金は基本的にホームで管理しているが、買い物に出たり、イベントで出掛けた際のお土産購入などは財布を持っていただき、ご自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親類からの電話などは、プライバシーを保ちながら対応している。また、携帯を持っている利用者様には自由にさせて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍においては常時換気を実施しながら、室温、湿度を常に管理し、日頃から臭いの無い空間づくりに配慮している。また、季節を感じていただくために四季折々の制作物を利用者様と職員の共同で作成して飾ったり、裏庭に咲いた花を飾ったりし、家庭的な雰囲気を感じて頂けるように工夫している。	リビングには利用者と職員との手作り作品や行事等の写真が掲示され、アットホームな雰囲気であり、居心地よく過ごすことができる環境づくりに努めている。天気の良い日は、利用者はテラスでコーヒーを楽しみ、雨天時は、廊下でリハビリを行っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や相性などを考慮し、その都度席替えを行ったり、それぞれ過ごしやすい場所を作り（お気に入りの椅子や座布団など）、利用者様同士でお喋りをしたり、一人で本や新聞を読んだり、テレビを見たり出来るよう自由に過ごせる様に工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている馴染みの家具や物品、写真やお仏壇などを居室に配置し、落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。	居室は、利用者と家族が相談して、使い慣れた好みの家具や写真等が持ち込まれている。また、清潔で安全で寛げる空間となるよう配慮し、利用者一人ひとりの個性にあった部屋づくりに努めている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置やバリアフリー、物の場所など出来る限り自分の力で生活できる空間づくりをしている。また、転倒の危険性がある方には転倒防止の為センサーなどの工夫も行い、常に援助が出来る環境づくりを図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って職場会議や、ケースカンファレンス、身体拘束廃止委員会、運営推進会議などを通して常に理念の共有を行い、実践に繋げるよう努力している。しかし、コロナ禍においては地域の方とは挨拶程度で積極的な働きかけは出来ていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においては、以前の様に地域交流ができていないが、地域への散歩やドライブ、買い物などは感染防止対策を最優先しながら実施している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍においては、地域の方への情報発信は出来ていないが、運営推進会議では地域の民生委員さんを通じて施設の現状報告を行い、ブログなどでは認知症の方々の理解を求めるために、きずなの日常を情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においても、運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、民生委員、市保健福祉課、地域包括、事業所職員が参加し2か月間の状況報告や対応に困っていることなどを相談し、意見やアドバイスを頂くことでサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	金銭問題や、後見人である家族の問題など市保健福祉課や地域包括支援センター職員へ相談、報告など連携を密にしアドバイスを頂くなどして連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みや研修に参加し職員全員が周知徹底できている。やむを得ず身体拘束をする場合はユニットミーティングや身体拘束廃止委員会で話し合い緊急性、非代替性、一時性などの原則を周知徹底することで、身体拘束を行い、ケアに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の参加や勉強会を行い、職員間で虐待防止に対しての意識の共有を図っている。また職員のお互いの言動や行動に注意し虐待の危険性を早期に発見することで虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修に参加し、勉強会を通じ職員間で権利擁護に関する情報を共有し、必要がある場合は、関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際に事業所の運営理念を説明し、疑問や不安等を伺い、十分に納得を得た状態で契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行っているイベントの参加や面会の際などに家族や利用者とのコミュニケーションを図り、意見や要望を伺うように努めている。コロナ禍においては、電話報告を密に行い、通信などでも状況報告をし、家族からの意見や要望など情報を得た職員との情報の共有を行い、運営に反映できるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内においては、定期的にミーティングや勉強会、ケースカンファレンスを行ったり、連絡帳や思い付きノートを通じ、職員の意見や提案を聴き、運営の質の向上に努めている。企業全体としては、4か月に1度の全体会議に於いて全職員との交流を図り情報交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況や特性を把握をし、それぞれが少しでも働きやすい環境を作れるように努めている。有給休暇も平等に取得できるようにお互いが協力し合える環境づくりに努めている。ストレスチェック等も実施していたが、例えコンピューター診断であっても、職場の上司や同僚が実施するのは、本音が書けないと言った意見もあり、実施が途絶えた。今後は他の機関を利		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、職員の個々の特性、能力、体力、家庭状況等を把握し、その能力が十分に発揮できるような環境作りと、どんな状況下においても、安心して働くことが出来るよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の参加や定期的な勉強会、ビデオ視聴などを通じて人権について学ぶ機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職としての質の向上や、ケアの質の向上の為、定期的な勉強会や外部研修に積極的に参加している。また、年3回の企業全体会議では、情報交換や勉強会、心肺蘇生訓練などの実施訓練などを行い職員のスキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修ではリモート研修が主となったため同業者との交流を図ることがむずかしくなったが、企業全体会議においては、積極的に交流を図り、悩み事や情報共有、情報交換などを行い、サービスの質の向上を目指す取り組みを行っている。また、相互訪問を行い、合同イベントにも取り組み、他事業所職員との交流も図った。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、特に利用者様の個性を把握し、傾聴受容の姿勢で安心して生活出来る環境づくりをし、1対1の対話の機会を設け信頼関係を築く様に努めている。また、情報の共有を図ることで、どの職員に対しても安心できる関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネや管理者は、家族の不安や要望を把握し、安心できるよう密に連絡を取り、信頼関係を築く様に努めている。担当職員は、面会などの際には利用者様の近況や参加したレク、作った作品等を細かく伝え、家族とのコミュニケーションを図っている。又、日頃の生活状況をブログを通じて見て頂くことで安心して頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を傾聴し情報収集に努め求めている事を把握することで、支援に繋がっている。また、福祉用具など本人の機能や能力に応じたサービスを提供できるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お楽しみイベントとして、利用者様とカレーライスや一銭洋食、ホットケーキ、月見団子等を一緒に作ったり、日常生活における動作では、食事の後片付けや掃除、洗濯物干し洗濯物たたみなど出来る機能を低下させない程度に、職員と共に行い共同者の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においては、面会時間の短縮やイベントへの参加を中止している状態ではあるが、電話やきずな通信、ブログ等で状態の報告や情報交換を積極的に行い、家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。また、家族が病気であったり、遠方であったりする場合は、家族に対しても支援できる関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、以前のように馴染みの理髪店などは利用できていないが、馴染みの場所へのドライブや買い物、外食などは継続している。また、信仰している教会の方の訪問等も受けている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態を職員が周知把握し、利用者様同士のコミュニケーションが円滑にできるように、時折席替え等もしており、レクにおいても共同で作品を作るなどして、お互いが支え合い共同の達成感を味わって頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話連絡を行ったり、転院先の状況を聴くなどして経過フォローしている。また、退所時には、滞在中の写真をUSBに保存し家族へプレゼントしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中や、職員との会話の中で発言したことや、やりたい事などを記録に残し、他の職員と情報を共有し、出来るだけ思いや意向を実現出来る様に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き取りケアに反映させている。また、入居時には今まで使っていた馴染みの物や思い入れのある物を持ってきて頂くなどし、それについて話を聞くことで、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し本人のペースに合わせてケアを実践している。心身状態に関しては、一日2回バイタル測定を行い異常の早期発見に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケースカンファレンスや、モニタリングを行い本人の状態や家族の希望を把握し、情報交換を行いながら計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や発言をありのままに介護記録に残し、利用者様の心身状態や変化を職員間で共有しケアに反映させている。記録は日常の様子と気づき、身体状態に分けて記録し見やすいように工夫している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にあり、外出外泊に制限があるものの、個々に合ったりハビリ、レクリエーション、医療連携等、柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。また、家族も高齢であることから、家族フォローにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園への散歩、コンビニへの買い物地域交流センターへの訪問や同区内の施設見物などコロナ禍でも出来る地域資源の活用や、交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望によるかかりつけ医の確保定期受診等適宜支援している。 また、1週間に1度の歯科の訪問診療、2週間に1度の内科医による訪問診療を受け、適切な医療を受けられるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の状態や変化を看護職に報告し情報共有に努め又対応や処置の指導などを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が受診又は入院する時は病院に看護介護添書を渡し情報の共有を図っている。また、入院から退院までは医療連携室と密な連絡をとりあっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、家族、医師、看護師が常に話し合いが出来る環境を整えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加や勉強会、心肺蘇生実施訓練を行い、事故発生に備え対応できるように努めている。また、事故発生時の対応をマニュアル化し、見える場所に掲示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・風水害・高潮・地震等の災害を想定し、定期的に避難訓練を行い、備蓄品の確保等を行っている。また、災害についての勉強会も行っている。地域への呼びかけは避難場所を福祉センターにするなどして協力を得ている。しかし、近隣住民に対しては民生委員を通して訓練の実施を報告するのみとなっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、それぞれの方のプライバシーを守り、接遇の徹底に努めているが、職員も人間であり時にはきつい言葉も聞かれる。その際はお互いが注意し合う事で、仲間意識を深め、介護者としてあるべき姿を常に心掛けるように努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言いたい事を言い、利用者様自身が自己決定が出来るように、状況や場面作りに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まってはいるが、無理強いをせず、一人一人の思いや、その人らしいライフスタイルを尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月おきの散髪、を定期的に行い、その他顔そりなど希望があれば近隣の理髪店を利用している。個々の生活習慣、好みに合わせて本人の意思で行っている。自己決定が困難な方には職員が気温や季節感を考慮して支援している。家族の面会の際には特にきちんとした身なりである様に心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事前に献立をお知らせしたり、時には季節弁当の利用や、隔週の日曜日の朝はパン食にするなど工夫している。裏庭に利用者様と一緒に野菜を植え、収穫したものを食事に出すこともあり喜んで頂いている。片付けは当番制にしており、皆様進んで片付けをして下さっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況を考慮してカロリー計算を行い嚥下状態に応じた食事形態で提供している。また、アレルギー対応や栄養補助食品の導入も行っている。水分は、最低一日1000mlとし、制限がない限り1200～1500ml摂取を促している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア及び義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔、異常の早期発見に努めている。また、週に1度訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や情報の交換を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して定時声掛けや誘導を行っている。また、失禁しないように紙パンツに頼るのではなく、状況に応じて布パンツに戻し機能の後退を防ぐなど試みている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給や本人の好みの乳酸菌飲料を摂取したり、牛乳、ヨーグルトなどを取り入れ、出来るだけ薬に頼らない方法を試み、腹部マッサージや排便体操を実施しそれでも便秘の場合は医師に相談し緩下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ほぼ全員が、見守りや入浴介助が必要なため、色々な業務を兼ねながらの入浴介助なので、決まった範囲での時間や曜日を入れ替える事は実施しているが、利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴をして頂くことは難しい。しかし、入浴が楽しめる様に入浴剤の使用や、季節に応じミカン風呂や菖蒲湯などの工夫は行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や照明の工夫、寝具の定期的な洗浄、交換を行い、常に気持ちよく入眠できるように援助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情を常に確認できる場所に保管し作用副作用を職員間で共有するように努めている。また、薬のセットは数人で何度も確認し誤薬防止に努めている。嚥下の状態に応じて薬の形態もその人に合ったものに選別している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては、食器拭きや洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、畑作業など個々の能力に応じた役割を持っていただき、日々やりがいを感じて頂ける様配慮している。嗜好品や楽しみごととしては、希望する飲食店に食事に行ったり、買い物に行くなどを試みている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、季節に応じて外出を行い、花見、鯉のぼり見物、紅葉狩り海辺へのドライブなどを行ったりし、その際には、ご自宅の傍を通過して懐かしんで頂いたりしている。利用者様によっては外食やショッピングなどを積極的に行っている。また、外出が難しい方は、近隣の散歩などを行い、ご家族にも協力を仰いでいる。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金は基本的にホームで管理しているが、買い物に出たり、イベントで出掛けた際のお土産購入などは財布を持っていただき、ご自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親類からの電話などは、プライバシーを保ちながら対応している。また、携帯を持っている利用者様には自由にさせて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍においては常時換気を実施しながら、室温、湿度を常に管理し、日頃から臭いの無い空間づくりに配慮している。また、季節を感じていただくために四季折々の制作物を利用者様と職員の共同で作成して飾ったり、裏庭に咲いた花を飾ったりし、家庭的な雰囲気を感じて頂けるように工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や相性をなどを考慮し、その都度席替えを行ったり、それぞれ過ごしやすい場所を作り（お気に入りの椅子や座布団など）、利用者様同士でお喋りをしたり、一人で本や新聞を読んだり、テレビを見たり出来るよう自由に過ごせる様に工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の性格や相性をなどを考慮し、その都度席替えを行ったり、それぞれ過ごしやすい場所を作り（お気に入りの椅子や座布団など）、利用者様同士でお喋りをしたり、一人で本や新聞を読んだり、テレビを見たり出来るよう自由に過ごせる様に工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置やバリアフリー、物の場所など出来る限り自分の力で生活できる空間づくりをしている。また、転倒の危険性がある方には転倒防止の為センサーなどの工夫も行い、常に援助が出来る環境づくりを図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		